



キヤノンマーケティングジャパン株式会社

2021-2025 長期経営構想

代表取締役社長 足立 正親

2021年4月23日

共生

「世界の繁栄と人類の幸福のために貢献していくこと」

Kyosei :
Living and working together for the common good

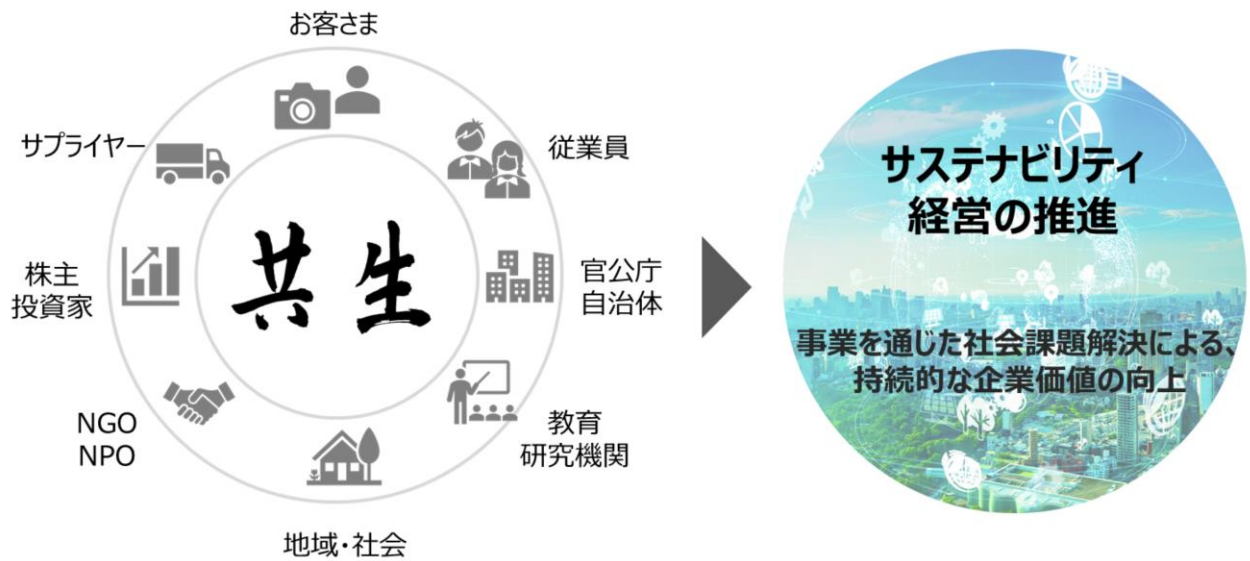
キヤノグループの企業DNA
「進取の気性」

「過去の前例にとらわれず、新しい価値を追求し続ける」

- まず、今回、長期経営構想を議論するにあたって、私たちは何のために事業を営むのかと考えた際に、1988年にキヤノグループで提唱した「共生」というものを改めて企業活動の根幹に据えていきたいと思っております。
- そして、この「共生」を実現する企業DNAとして、市場環境やお客様のニーズに先回りし、新しい価値を追求し続ける「進取の気性」を再認識し、更に強化していきたいと思えます。

サステナビリティ経営

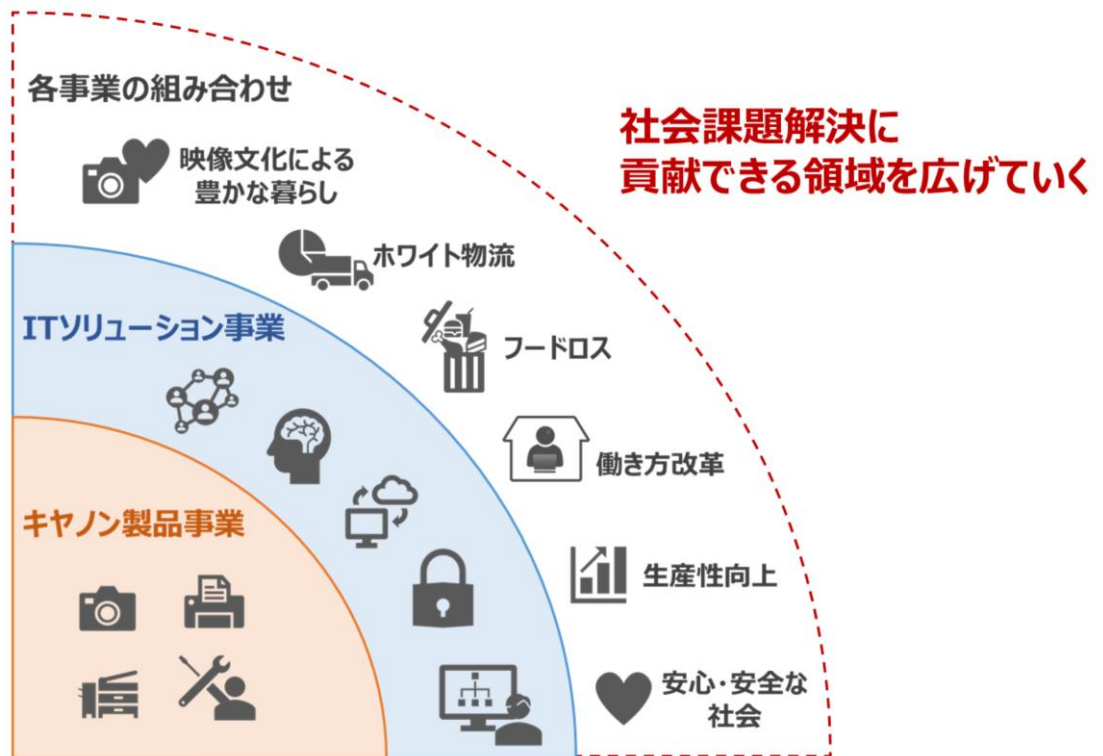
キャノンMJグループにおいても、「共生」の理念のもと、すべての人類が末永く共に生き、共に働き、幸せに暮らしていける社会の実現を、全てのステークホルダーと追求していく



- この「共生」の実現は、現在の経営の言葉でいう、サステナビリティ経営そのものであると思います。
- キャノンMJグループにおいても、「共生」の理念のもと、すべての人類が末永く共に生き、共に働き、幸せに暮らしていける社会の実現を、全てのステークホルダーの皆さまとともに追求してまいります。

キヤノンマーケティングジャパングループにおける事業を通じた社会課題解決

サステナビリティ経営の推進に向け、キヤノン製品事業とITソリューション事業を組み合わせることで解決できる領域を広げ「事業を通じた社会課題解決」に取り組んでいく



- サステナビリティ経営を実現するために、今までの法令順守、CSRという概念を超えて、事業活動そのものが社会課題の解決につながるという考え方をより重視してまいります。
- これまでも、キヤノン製品事業を中心に、環境配慮型製品の提供および製品・カートリッジなどのリサイクル推進に取り組んでまいりました。
- しかし、社会には解決すべき課題が多くあります。それらの課題に対して、これまでの取り組みに加え、キヤノン製品事業にITソリューション事業を組み合わせることで、解決できる領域を広げ、安心安全な社会の実現、中小企業の生産性向上による地域活性化などの社会課題の解決に貢献してまいります。

2025年ビジョン 社会・お客さまの課題をICTと人の力で解決するプロフェッショナルな企業グループ

基本戦略

1. 事業を通じた社会課題解決による、持続的な企業価値の向上
2. 高収益企業グループの実現
 - ▶ ITソリューション事業を成長の中核とした事業変革
 - ▶ 顧客基盤を活かした顧客層別営業体制の強化
 - ▶ キヤノン製品事業の付加価値向上と更なる高収益化
3. 経営資本強化による、好循環の創出
 - ▶ 人材の高度化・エンゲージメント向上による事業成長の加速
 - ▶ 戦略的事業投資による事業成長の加速

**2025年
経営指標**

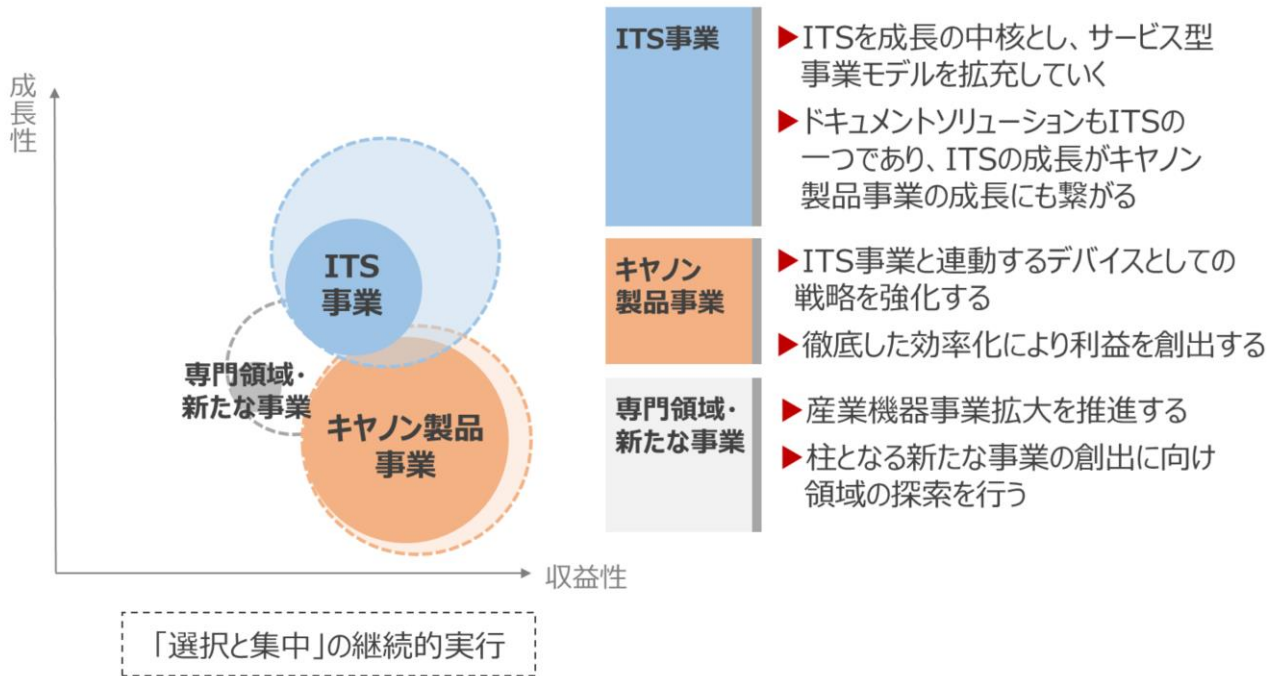
営業利益	500 億円（580億円に上方修正※）
売上	6,500 億円
内、ITS売上	3,000 億円
ROE	8.0% （9.0%に上方修正※）

※ 2023年1月27日発表の「2022-2025 中期経営計画 進捗報告」において営業利益、ROEの数値を上方修正しております

- こちらは、2025年に向けた取り組みをまとめた内容です。
- 2025年のビジョンは、「社会・お客さまの課題をICTと人の力で解決するプロフェッショナルな企業グループ」です。
- このビジョンを実現するための基本戦略として3つを掲げました。
- 一点目が、「事業を通じた社会課題解決による、持続的な企業価値の向上」です。こちらは只今ご説明してきた通りです。
- 二点目が、「高収益企業グループの実現」です。ITソリューション事業を成長の中核としていき、豊富な顧客基盤を活かした営業体制の強化を進めてまいります。キヤノン製品事業においては付加価値を向上させ、更なる高収益化を実現してまいります。
- 三点目が、「経営資本強化による、好循環の創出」です。高収益化することで生み出した利益を、さらなる成長のために投資を行うことで循環のサイクルを回します。具体的には戦略的な事業投資、人材投資を行ってまいります。
- 2025年時点の経営指標は 営業利益：500億円、売上：6,500億円、そのうちITS売上：3,000億円、ROE：8.0%を目指します。
 ※ 2023年1月27日発表の「2022-2025 中期経営計画 進捗報告」において営業利益580億円、ROE 9.0%に上方修正しております

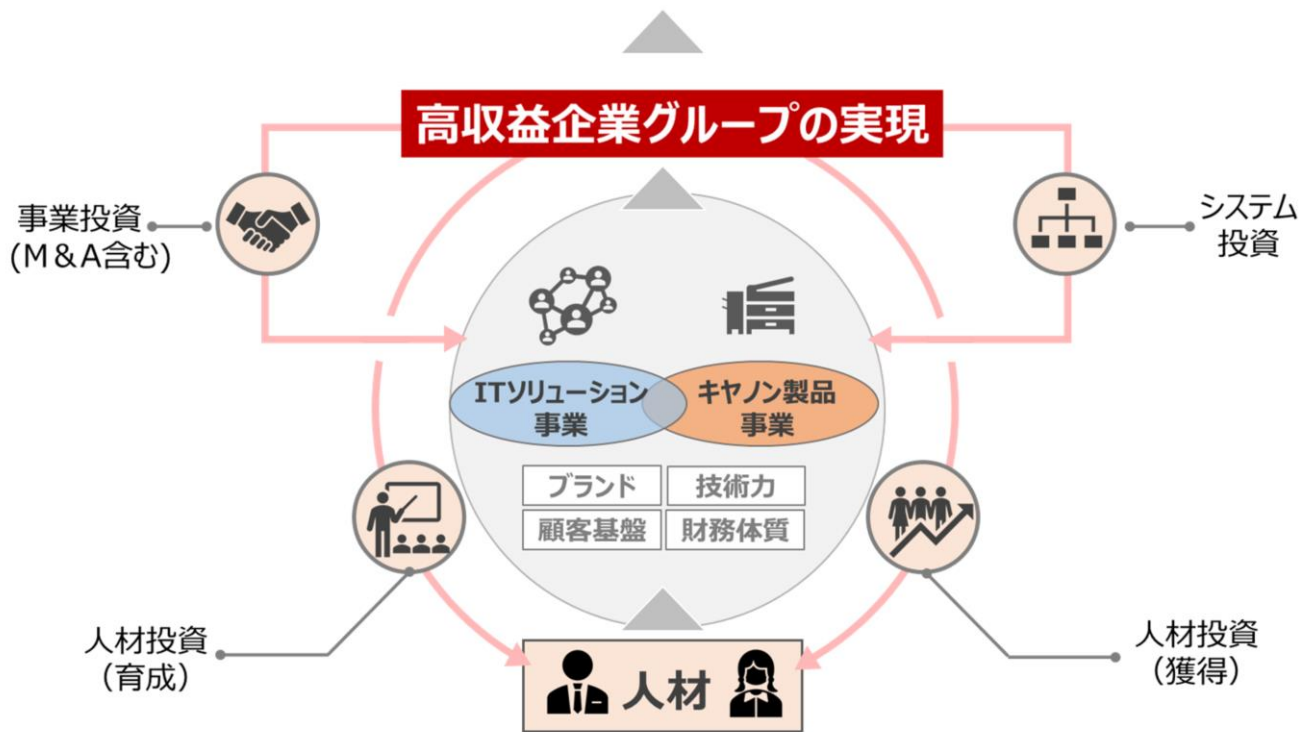
事業ポートフォリオの考え方

キヤノンMJグループは、ITソリューション事業を中核とした企業へ事業ポートフォリオを転換し持続的な成長に向け、事業ポートフォリオの見直しおよび最適化を継続的に行う



- 続いて、ビジョンおよび経営指標の実現に向けた、事業ポートフォリオの考え方についてご説明いたします。
- まず、ITソリューション事業を中核に事業ポートフォリオを転換してまいります。
- キヤノン製品事業は、ITソリューション事業と連動する戦略の強化とともに、効率化による収益力の向上に取り組めます。キヤノン製品事業で培った顧客基盤、ブランド、および収益をITソリューション事業に投下し、ITソリューション事業で深めたお客さまとの関係性をもとに、キヤノン製品事業を拡大・高付加価値なビジネスに展開していきたいと思えます。
- 「専門領域・新たな事業」について、専門領域は、産業機器事業の継続的な拡大に取り組んでまいります。新たな事業は、ITS事業とキヤノン製品事業をベースに新たな事業の創出に向け領域の探索を行います。
- 事業ポートフォリオの見直しおよび最適化を目的に、継続的な「選択と集中」を実施してまいります。

事業を通じた社会課題解決による、持続的な企業価値の向上



- 続いて、成長に向けた投資の考え方となります。
- 持続的な企業価値の向上のために、成長投資を加速させてまいります。
- キヤノン事業およびITソリューション事業により創出した利益をもとに、M&A含めた事業強化への投資、および価値の源泉である人材への投資を行ってまいります。
- それにより、事業がさらに強くなり、より大きな利益を創出し、更なる成長へ再投資するという、好循環を作り出し、持続的な企業価値の向上を実現いたします。

Canon

キヤノンマーケティングジャパングループ

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。